



こんにちは **村田 けい子**です

みなさんのご意見・ご要望をお寄せ下さい。フェイスブックやっています。

移動事務所 090-9144-8534

発行/日本共産党立科町議会議員 村田桂子 立科町塩沢1483 ☎0267(56)2868

2022.5.20

No352

米軍輸送機の低空飛行訓練についての申し入れ 佐久市長に 立科町上空にも轟音が

藤岡義英(県議予定候補)さんのブログから(5月13日付)

佐久市上空での米軍機による飛行訓練中止を求める要請を日本共産党佐久市議団が柳田佐久市長に行いました。

私、藤岡もカメラマンで参加してきました。柳田市長は、日米安全保障条約の必要性について見解の相違はあったとしても、今回の連日の飛行訓練と轟音については大変懸念していると話されました。

バルーンフェスティバル中の飛行はとても低空で、気球の高さと変わらなかったという認識は同じで、大変危惧しているという認識を示されました。また、事前通行なしに飛行している事についても改善してほしいと表明されました。

そして日米地位協定の見直しも必要との見解も示され、市議団の申し入れ内容についてほぼ一致したコメントをいただきました。

ただ現時点では長野県が主体となって国にあたっている段階なので、市独自に対応することは控えているとのことでした。

私も発言する機会をいただきましたので、県の動き、国の対応、在日米軍の回答など、慎重に見極めながら然るべき時に、バルーンフェスティバルの主催者自治体の首長として、今回の問題について改善を求める要請を行なってほしいと要望しました。



柳田市長に申し入れる
日本共産党佐久市議団

私も洗濯物を干しているときに、おなかに響く重い音が何回も上空から聞こえてきました。雲の上を飛んでいるのか、姿は見えなかったです。5月連休の時にはC130米軍輸送機4機が上空を旋回し、その後も複数機で低空飛行訓練を行っているようです。通告なしに勝手な振る舞い、許せません。



上房のバス停藤棚、枝垂れ桜も見事でしたが、1mはあろうかという花房は見事。

《町は花盛り》 西部地域 カラーでないのが残念！！



T社駐車場のシャクナゲ・サツキ(滝神)



山部S商店駐車場のモッコウバラ

今週のパチリ!

「ぜひ見に来て、きれいに咲いているから」とお誘いを受けてさっそくカメラを片手に西部地域にお目当ては滝神部落の少し手前、T事業所の駐車場の西側斜面。見事にシャクナゲが競い合っ

白、淡いピンク、濃いピンクの合間に真っ赤なサツキ。何度もこの場所を通っていながら、気が付かずにいました。竹藪を切り開き、シャクナゲを植えたのだそうです。大変なご努力が実を結び、見事な新名所となっています。通りかかったら山側を見てください。ピンクの可憐な花が目にも優しく入ってきますよ。

金井忠一氏、再び起つ決意！

県民応援のモノ言う県政に 7月21日公示
8月7日投票



「わたしが知事になれば、一気にいろいろ変わります。もっと暮らしが良くなり、子どもたちに希望が生まれます。」と意欲を語る金井忠一氏(5.11)

県知事選

4年前は「リニアよりクーラー」を言い続け、選挙では負けましたが、大きな世論となり、とうとうすべての小中学校にクーラーがつけました。

今度の公約は①リニアより県民支援、いのち・暮らしを守る②学校給食無償化に県として補助制度、高校生のタブレット購入に補助など若者が希望の持てる県政に③県民の声の届く身近な県政 を目指しています。日本共産党や県労連などで作る「明るい県政をつくる県民の会」の要請を受けて立候補を決意しました。



ロシアのウクライナ侵攻を機に、政府与党内で敵基地攻撃能力や憲法9条改正などが議論されていることに危機感を示し、「平和な社会の実現のため政府に物が言える首長が求められている」と主張。長引くコロナ禍などの影響で県民の生活が厳しさを増しているとして、「消費税の引き下げを国に求めていく」とも。すでに77市町村を回り始め、住民と懇談を重ねています。

労働災害が相次ぐリニア中央新幹線については、「工事を一時中止し、県とJR東海がそれぞれ検証すべき。本当に必要なのか再検討も必要」と主張しています。(一部長野日報web記事より)

『わが青春つきるとも-伊藤千代子の生涯』

連続上映会はじまる 5月21・22日、27・28・29・30日も



立科町では5.15中央公民館で2回上映会が行われ、70人を超える方に見ていただきました。多くの女性たちが、協力券を拡げてくださり、大勢のご参加で会場いっぱいになりました。事務局としてはホッとしています。

この映画は第二次大戦に向かう昭和の初めのお話で、国による「日本は大東亜共栄圏を作るアジアの盟主」といった『大義』を振りかざして侵略戦争に突き進む時代で、徹底して反戦運動を取り締まる治安維持法が施行されたころの話です。「感動した。」「戦前に勇気のある女性が信州にいたことがわかって素晴らしいと思った」「女性に選挙権も権利もない時代のことが分かった。戦争になると思想や言論表現の自由がなくなるのはロシアを見ているとよくわかる」「今の憲法を絶対に変えてはいけないと思う。勇気をもらいました。」などの感想が多く寄せられました。

コロナ禍がまだ続く中、換気に気を付けての上映会でしたが集まって一緒に映画を見て、その後語り合えるこうした文化活動はとても楽しみでもあり、また貴重な場でもあると思います。立科町のみなさんの文化活動へのご理解の深さに感動しました。また圧倒的に女性が多く、女性のみなさんの意欲に励まされました。

今回は『わが青春つきるとも佐久地域実行委員会』主催でしたが、9条を守る立科の会の「ひまわり」上映も好評でした。



「蓼科ふれあいオフィス」

初日に7人

毎月第3水曜日、蓼科地区に町長や産業振興課の課長が滞在し、皆さんの声を聴く1日オフィスが始まり、第1回目として5月18日開催、7人が参加したとの事です。

この日は町長滞在日とあって、関心も高く、中には待たされる人もあったとか。

やり方は、まず女神湖体育館に来てもらい受付。順に懇談、ほかの方は一人(一組)が終わったら電話で連絡するという方式。

内容は観光にかかわること、指定管理にかかわることなどが多かったとの事。(村田の聞き取りによる)

次回は6月15日(水)課長が対応予定。

里地区の地域懇談会も6月に3回開催予定。

